初出一覧

序章　『古事記』『万葉集』の表記における問題点

第一節　研究の対象と先行研究

第二節　表記研究における問題の所在

第一章　正訓字の様相

第一節　『古事記』における和化された字義を担う字

「『古事記』の表記―和化された字義をめぐって―」（「萬葉」（萬葉学会）第百五十三号、平成七年三月）を骨子とする。

第二節　『万葉集』における和化された字義を担う字

第三節　和化された字義を担う字の成立

第二章　正訓字と借訓字との間の揺れ

第一節　正訓字の認定―『古事記』の「画」の用法を中心に―

「『古事記』の表記―和化された字義をめぐって―」（「萬葉」（萬葉学会）第百五十三号、平成七年三月）を骨子とする。

第二節　『万葉集』訓字主体表記巻における懸詞の表記

「『万葉集』訓字主体表記巻における懸詞の表記」（「萬葉」（萬葉学会）第百六十七号、平成一〇年一一月）を骨子とする。

第三節　『万葉集』における「去」の用法―「ユク」「ヌ」の揺れについて―

「『万葉集』における「去」の訓―「ユク」「ヌ」の揺れをめぐって―」（「萬葉」（萬葉学会）第百五十九号、平成八年九月）を骨子とする。

第三章　表意性を有する仮名（借音字・借訓字）の問題

第一節　『万葉集』における表意性を有する仮名

「『万葉集』の仮名表記―表意性を有する例を中心に―」（「日本語と日本文学」（筑波大学国語国文学会）第27号、平成一〇年八月）を骨子とする。

第二節　表意性を有する仮名と伝達

「『万葉集』の仮名表記―表意性を有する例を中心に―」（「日本語と日本文学」（筑波大学国語国文学会）第27号、平成一〇年八月）を骨子とする。

終章　『古事記』『万葉集』の表記と表現―まとめと将来の課題―

第一節　和語の表記の様相

第二節　将来の課題